

秋田大学北秋田分校

が北秋田市に開設

「秋田大学北秋田分校」の開設式と記念講演会が11月17日、市役所及び北秋田市交流センターで行われました。北秋田市と秋田大学は、昨年10月6日に「北秋田市の豊富な地域資源を活用した産業振興に関すること」「地域を支える人材育成に関すること」「地域の住民の健康増進に関すること」を柱とした包括協定を締結しており、県北地域の活動拠点として北秋田市に分校が開設されたものです。

開設式では、「秋田大学北秋田分校」の看板掲げ関係者の出席のもと、津谷市長と吉村昇・秋田大学長により市役所玄関前で行われました。



続いて、津谷市長が「北秋田市では地域資源を有効活用しながら地域の活性化に取り組んでいます。高等教育機関として秋田大学がもっている教育資源や学生などといった人的資源を大いに活用させていた

ながら、北秋田市全域をキャンパスとして活動していただくことで市の活性化につながるものと確信しています。学生のみならず、地域

に入り込んでいただくことで、自然を活かしたダイナミックなフィールドワークや地域住民の方々とのふれ合うことにより地域の方々に刺激や活力を与えていただける。研究活動を通じてこの地域を発信し、注目を浴びよう、広くPRできる取り組みになっていただければと期待します」などとあいさつしました。

また、北秋田分校の運営に参画する藤原清悦・秋田銀行頭取からは「当行では平成18年7月に秋田大学と連携協力協定を締結し、本格的な産学連携活動を開始。当行としては経営的・経済的視点に基づいた発想力や地元及び県外企業とのネットワークの活用などにより産学連携と地域発掘の観点から、北秋田市の人的及び経済的な活力の盛り上がりや底上げにつなげていきたい」などとあいさつがありました。

引き続き、市交流センターで開設記念講演会が開催され、「わたしの小説の書き方」と題し、秋田大学客員教授で直木賞作家の西木正明氏が講演。会場に集まった250人ほどの市民みなさんが熱心に耳を傾けました。



▲ 西木正明氏が分校開設記念講演



▲ 記者会見に臨む津谷市長、吉村学長、藤原頭取

北秋田市と秋田大学との連携協定により具体的な事業展開が始まりました。

おもしろサイエンス

「教育資源提供」として市立鷹巣南小学校（佐藤和博校長・児童数101人）のこども科学教室が10月22日、同校で開かれ、児童らが秋田大学の先生や学生と楽しい科学実験を体験しました。

こども科学教室は、「おもしろサイエンス」として珪藻土を使った実験など秋田大学が主催し、北秋田市、民間企業との産学官連携により実施されました。また、今年の5月には、珪藻土



▲ 珪藻土のろ過の実験

等地域資源の新たな利活用の研究及び製品開発、地域産業の振興を図るため北秋田市珪藻土等地域資源利活用検討会が設置されています。

教室では、はじめに中田真一・秋田大学大学院工学資源学研究科教授が「今日は秋田大学からやってきました。みなさんといっしょに1時間楽しく過ごしたいと思います。ミクロの世界や温度が高い、冷たい世界などいろんな世界があります。難しいことは考えないで思いっきり遊んでください」とあいさつしました。

「けいそう土ってなんだろう？」「温度をやった実験をしよう！」「身近なエゴを体験しよう！」の3つのテーマで各コーナーに分かれ先生たちの指導のもと観察や実験を行いました。日本でも埋蔵量の多い珪藻土につい

ては、光学顕微鏡でたくさん小さな穴があるのを確認。その性質を使ってろ過材として利用されていることをトマトジュースなどによるろ過の実験で確認しました。

児童たちは、目を輝かせ、新しい発見に驚いたり、感心しながら、楽しい時間をすごしました。

「おもしろサイエンス」は10月23日に、小中学校児童生徒理科・社会科研究発表会に参加したみなさんを対象に鷹巣中学校体育館でも行われ、「珪藻土取扱企業紹介ブース」「秋田大学紹介ブース」も設置されました。

秋田大学マタギ展

秋田大学北秋田分校開設に合わせて、北秋田市を広く紹介すること目的に11月8日から19日の期間で「秋田大学マタギ展」が、秋田大学インフォメーションセンターで開催され、市の伝統的文化などが紹介されました。

会場には、阿仁地区に伝わるマタギの衣装や用具、パネルなどが展示され、市の特徴的なマタギの狩猟文化が紹介されたほか、観光をはじめとする市の紹介や、秋田内陸線のコーナーも設けられ、市のPRが行われました。

今後も、研究活動や市民向け公開講座など地域の活性化に向けた取組が行われます。



▲ ドライアイスを使った色の実験



▲ 秋田大学でのマタギ展